

令和6年度 第1回諫早市社会教育委員会議 議事録

日 時：令和6年7月24日（水）15：00～16：30

場 所：諫早市役所8階 会議室8-1

出席者：【社会教育委員】

平山 仁 委員、西山敏明委員、石丸民世委員、橋本克彦委員、日野涼子委員、
池田雅英委員、松山 綾 委員、高戸幸恵委員、西川 亨 委員、菅原良子委員

【事務局】

石部邦昭（教育長）、竹島健吾（生涯学習課長）、藤山隆一郎（同課長補佐）

山下美喜夫（同参事補・指導主事）

議 題：（1）子どもでつながる地域づくりについて（地域学校協働活動推進事業紹介）
（2）令和6年度研究大会について
（3）その他

（生涯学習課長補佐）

それでは早速ですけども、本日の議題に移ります。

ここからは議長の進行にて会議を進行していただきたいと思います。

（議長）

それでは皆さんこんにちは。

この暑さは、10年に1度とか色々な例えが出てくるんですが、部屋の中はいいんですが、外に出たくない夏が来ておりますが、本来ならば子どもたちもたくさん体験してほしいところと思っております。

本日は。地域学校協働活動が議題となっており、これはずっと言われていることなんですけども、どういう事業であるかということを確認するという大きな内容となっております。

そして、事前に皆様にもお知らせをしていたとおり、今後の大会参加のことやスケジュールのこと、連絡協議会の件なども、この後、話題として予定をしておりますので、ご協力よろしく申し上げます。

それでは事務局の方から議題1について説明をお願いいたします。

（生涯学習課参事補）

では、地域学校協働活動について、スライドを使って説明をさせていただきます。

皆様には事前に12枚のスライドのプリントが配られていたと思いますが、それと内容は同じものでございます。最後にスライドにないものもありますので、こちらの画面かご自身のプリントを見ていただければと思います。

では、これから地域学校協働活動と地域学校協働本部についてご説明させていただきます。
どうぞよろしくお願いいたします。

地域学校協働本部の説明の前に、地域学校協働活動の地域・学校ってということなので学校と地域とっていただければよいと思います。

長崎県や諫早市の状況から説明したいと思います。

現在、学校支援会議や学校運営協議会が、市立の小、中学校にどちらかがあることになっております。

ここで色々なことが話し合いをされる場になっておりますが、皆様も委員として出席されている方がいらっしゃるのではないかなと思います。

そして、学校での話し合いでもなく、地域で開催されるお祭りであったり通学合宿であったりといった活動のことについて話し合い、それを活動に移していく、その活動が地域学校協働活動といわれるものです。

簡単にいうと、話し合いと活動といただければなと思います。

そして、今、国や県で言われているのが、会議と活動のそれぞれが別々に動いてもうまくいかない。

例えば、話し合いだけでも活動ができないと、ただの話し合いだけになってしまう。

逆に活動をしていても、何のためにしているのかが明確でないと、ただ活動だけに終わってしまうということで、ここの学校での話し合いの場所と、活動の場所を連携させることで一緒に協働していくことが大事だと言われております。その時のキーとなる人が地域コーディネーターと呼ばれる人たちです。こういう図だと思っていただければと思います。

そして、この地域学校協働活動は長い名前ですが、一体何だというと、実際に皆様がされていることです。

例えば、登下校の見守り、通学合宿、学校での読み聞かせ、小野中学校では、中学生が公民館に行って読み聞かせをするということもしていただいております。あとは、総合学習などで、ゲストティーチャーとして学校に行かれる、そんな委員さんもいらっしゃるのではないのでしょうか。ほかには、南地区の龍踊り、のんのこまつりに向けて、小さい子からお年寄りまで地域が一体になってやる、そこに学校も加わってという、正に地域学校協働活動の龍踊りだったなと思っております。他にも色んな祭りが地域ごとに行われていると思います。

このように、新しいことではなく、皆さんがずっとされてきたこと、それが地域学校協働活動です。再度申しますが、新しく始めるものという訳ではございません。

では、なぜ今、地域学校協働活動が必要なのかということと言いますと、子どもを取り巻く社会の色々な課題、少子高齢化であったり、学校が抱える課題の複雑化であったり、あと、家庭の形の多様化、地域の繋がり希薄化など、諫早市だけではなく、県や国の方でも言われております。そのような中で、子どもたちを学校だけで完結して育てることに無理がある。

そこで、その子どもたちを、眼差す眼を増やしていくということが大事ではないかと言われております。

平成27年の中央教育審議会で「誰かが何とかしてくれるのではなく、自分たちが当事者として、自分たちの力で学校や地域を作り上げていく。子どもたちのために学校を良くしたい、元気な地域を作りたい、そんな志が集まる学校・地域が作られ、そこから子どもたちが実自己実現や地域貢献など、志を果たしていける未来こそ、これからの未来である」と答申されました。それを受けて、平成29年に社会教育法の一部が改正となりました。

ここで、地域学校協働活動推進における、地域コーディネーターと呼ばれる方の役割のあり方とか、そういうものがこの法律の中に明記をされたということになります。国を挙げて地域学校協働活動をすすめていかなければならないというふうになっています。

この地域学校協働活動がうまくいくために、国や県は地域学校協働本部というものを一緒に且つ、中心として運営を行った方が、地域も学校も活性化していくと考えております。そこで、この地域学校協働本部について、ご説明いたします。

地域学校協働本部とは、より多くのより幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制のことをいいます。

どのようなものが本部と呼ばれるのかというと、3つありまして、1つ目はコーディネート機能があるということ。要は、何かをしようと言った時に、これはあそこに声をかけよう、これはあの人たちとちょっと話してみよう、協力をお願いしてみようなど。

2つ目は、多様な活動していただくこと。3つ目は、それが続いている、継続していること。この3つがあれば、本部と呼ぶことができると国は言っております。要は、「これが本部です。ここのお部屋に誰々がいて、委員がいてというしっかりしたものでも良し。そのようなしっかりした本部がなくても、ある方が声をかけて、色々な団体が集まって、そして多様な活動をしていて、それが継続しているのであれば、それを本部と呼ぶこともできる」と言っています。

ですから、きちっと規約を作り、他にも色々な決まり事を作って、ガチっとしているものでは、参加しづらい、継続しづらいのかもしれないですけど、緩やかなルール、緩やかなネットワークを作りながら、この本部の活動ができればよいと国は申しております。

では、地域学校協働本部ができたなら、どんなメリットがあるのか、ここに書いてみました。様々な団体、婦人会であるとか、健全育成会であるとか、そういう団体同士の情報交換、本部に所属することで、情報の共有や協力の依頼、例えば、今度この行事を手伝ってもらえませんかとか、一緒にやってみませんかなど、広がりが見られるのではないかと思います。ほかに、各団体の抱える悩み、例えば会員が歳を重ねてきて、なかなか人が集まらなかったり、活動が制限されたりする中で、違う団体の人に声を掛けることで、今までにない年齢層の方の協力を得ることができたり、パワーをいただいてそこでのコミュニケーションが図れたりすることによって、地域のコミュニティ力の活性化にも繋がるだろうと思われま

あとは、学校からとしましては、学校から何か依頼をするときに頼みやすいのではないかと。本部の構成員や、地域コーディネーターに聞いたら、いろんなことを繋いでくださったり、いろいろ教えてくださったりするから、まずは本部の方や地域コーディネーターに聞けば、何かヒントが得られる協力が得られるという、わかりやすさを持っているのではないかと。

子どもにとっては、地域にはこんな人がいるんだ、こんなものが地域にはあるんだ、今まで通っただけなのに、こんな歴史があったんだというようなものがわかってくる。知ることによって愛着ってというのは生まれてくると思います。

そして、最後から2つ目の、地域住民の人にとって、生きがいややりがい、自分でもできることがあるんだなと思っていただく機会になるのではないかと。この本部があることで、市としての支援が可能になるのではないかと考えています。

皆様の中には、メリットだけでなく、本部ができたとしたら、会議などの機会が増えるのではないかと、頼まれることが今でも目一杯なのに、さらに増えるのではないかと危惧される点もあるかもしれません。

そこで、市としましては、そういう負担を少しでも軽減していくために、その役割を担う本部を作っていきたいと考えています。

そのようなことから、本日ここに集まっておられる委員の皆様には、いろんなご意見をいただきたいと考えております。

地域によって、本部の形はいろんな形があると思います。その形作りからしていかなければならないかなと思いつつ、今検討し、悩んでいるところがあります。

まずは本部の規模、範囲のことです。大きく分けると2つあるのかなと思います。まず、単独型。その単体学校独自で行う。西諫早小学校だけ、真津山小学校だけが活動の範囲であるもの。次に合同で設置するもの。有喜小、有喜中で1つの本部という1小1中型。ただし、市内には複数の小学校から行く中学校もあるため、その大きな中学校の範囲とするのか、諫早中学校に関しては小学校区が4つあります。その場合、どのようにして本部を1つにするのか、それとも小学校、中学校ごとに設置した方がいいのか。これも地域によって様々と思いつつ、色々検討をしているところでございます。

次に2つ目として本部の場所です。これもどこにあったら一番いいのか、例えば、学校内の余裕教室いわゆる空き教室というものがある場合は、そこを本部とすることが出来ないか。また、既存の団体、例えば婦人会や子ども会、健全育成会などの団体の1つを主団体として、本部の主になってコーディネートしていただくなど、そのようなこともできるのではないかと考えています。

次に、公民館に本部を置く。市立公民館は市内に15しかありませんが、自治公民館はたくさんあります。そこに本部を置くことで、地域の人たちが情報交換をしやすくなると思います。これをどうやったらいいかというのを今検討しているところで悩んでいるところです。

諫早市としましては、この学校と、地域学校協働本部この本部というのを作る時に、キ一になるものが2つあり、市として今後立ち上げたい、仕組み作りをしたいと思ったときに、この2つは絶対あるべきだろうと思っているものがあります。1つ目は地域コーディネーターの存在、2つ目に事務局、会計です。地域コーディネーターが2つの役割を果たしてもらえば、本部として事業を委託することができると考えていますが、業務を委託するには、委託料の管理のために会計の立場の方は必須になりますし、活動をコーディネートしてもらう地域コーディネーターの存在も大事であるため、この2つを必須とすることで、本部が仕組み作りとしてできないかと考えております。

その場合、地域コーディネーターには、市教委から委嘱をさせていただき、そしてコーディネーターに謝金をお支払いしたい。そして、先ほど学校の余裕教室の話をしました。これは学校の余裕教室の勝手な名前ですが、仮の地域連携ルームみたいの名前で、そこで準備をしたり、そこに地域の人が訪ねてきたり、学校の先生や学校コーディネーターとそこで打ち合わせをしたりとか、そういうことができるといいなと思っているところです。

余裕教室があるところ、ないところがございまして、教室としては無理であれば、例えば時間によっては図書室に本部の人がいて、連絡調整が行える。今の事務補助さんのような、そういう場所、そういう方がいらっしゃれば、いろんな連絡がとりやすいというふうに思っております。

あと、事務局・会計ですが、新しく事務局会計の方を選任してもいいのですが、なかなか見つからないかもしれません。その場合、今ある団体にその役割を兼ねてもらえないだろうかと思っています。

例えば、いろんなところで積極的に活動していただいている、健全育成会、婦人会の皆さん方が、事務局会計を兼ねていただき、そこから地域を繋いでいくようなことをしていただく。これは、こちら側だけの理想的な考えなので、「いや、そういうことは難しいだろう」というのが必ずあると思います。今日は、そういうご意見やお考えをお聞かせいただければ、ありがたいと思い説明をさせていただきました。私からの説明は以上になります。

(議長)

ありがとうございました。

本日の議題の一つにこの件を挙げたということは、教育委員会としてもこの件に力を入れて、地域学校協働本部を市内に整備をしていきたいという意図があるということだと思っています。

そこで、今後、何回かこの件について意見を出し合っていくことになるのですが、今日はこのことについて理解を深め、そして、疑問がある点や、「いや、うちの団体の実状はこうだ」等の意見を出していただきながら、協議していきたいと思っております。

皆様からご意見を出していただく前に、ちょっと基本的な数字として今、地域コーディネーターとして市が把握している人数や、どのぐらい整備されているのか、地域学校協働本部

としてはっきり動き始めている学校、また学校区の数など教えていただけませんか。

(生涯学習課参事補)

今の質問にお答えいたします。

各年度の最後に、学校教育課が学校運営のことについて調査をしています。そこで出てきた数字です。

地域学校協働活動協働本部の、本部と言われるようなものがあるというところが32、ただし、その中には実際に機能しているかと言われると、そうではないという意見も含まれています。

そして、地域コーディネーターと言われる人が存在するというところが34です。調査のうち、その地域コーディネーターはどんな方ですか、どんな役職というか立場の方ですかという、例えばPTAの関係者とか、地域の方とかいうふうに印をつけるところがあるのですが、そこにたくさんの印が付いているところもございました。

だから、この方というよりも、いろんな方が何かコーディネートをしてきているという形で印をつけてくださっているところもあったようです。数値としては以上です。

(議長)

ありがとうございました。6割ぐらいの学校が設置している、あるいはコーディネーターがいるという回答があったということです。ただし、中身は別にしてということだと思っております。そういうことも現状として、これから少し地域学校協働活動本部について、理解を深めていきたいと思うので、どなたか口火を切っていただくとありがたいのですが、いかがですか。

(委員)

学校としては、今32という数字をお聞きして、意外と多いんだなという感想を持ちました。

実は、私どもの中学校では、まだ地域コーディネーターとしては挙げてなかったんじゃないかなと思っています。

学校コーディネーターについては、主に教頭先生が中心となり、学校としては地域との連絡を取ったりする役割は、教頭が担っているのですが、本校では地域コーディネーター、すなわち、いろんな団体の繋がりの中にあるような、中心的な方っていうのは、まだ挙げきれない状況です。

理想的には参事補から説明があったように、緩やかに繋がって、その人が婦人会の方に繋いでいただいたり、健全育成会の方や子ども会の方に繋げていただいたりとかという動きなのかもしれませんが、現状はまだかなという感じを受けています。

ただ、32校の学校は、1人じゃなく先ほど言われたように複数の3人位そういった方がいらっやって、何とか繋がっているという状況であると思います。

スタートはそういうあんまりガチガチではなく、自然の状態が無理なく広げていくのがいいのかなと、私自身思っているところです。

学校といたしましては、県、市を通して来る調査で、学校によって答え方に少しばらつきがあるのかなというふうに想像しました。しかし、今のところはそれで大丈夫だと思っています。

今後、校長会や教頭会の中で学びながら理解を深め、先程の参事補の説明はすごくわかりやすかったので、ぜひ校長会や教頭会で説明をしていただきたいなというふうに感じたところです。この件に関しては、これからどんどん広がっていくのかなというふうに思っています。

(議長)

学校にいらっやる立場としても、まだまだこれからだということでしょうね。

飯盛というところは、すごく地域の連携ができて、そしてまた学校のこともよくご存知ですので、この件についてお願いします。

(委員)

今おっしゃったように、学校として例えば地域コーディネーターは、おたくの学校では設置ありますかとの質問に対しては、おそらく「この方のよね」、「PTA会長さんだろうね」とかそういう認識だと思います。

学校として、こういうシステムを確立させていくという目的の中で、地域コーディネーターをこの人に位置づけて、しっかり我々の教育と地域と結び付ける役割を担っていただくという役目なのですよ、こういう役職なのですよというような認識を持っていただいて、私達は構えていますと言っている学校は、多分少ないと思います。

だから、そういったところまで近づけていくとすると、やっぱり理念の共有をもっと進めないといけないと思います。

例えば、自分はこの地域コーディネーターとしての役割をいただいている責任者なのだという意識なのか、ここでも大きく違ってくるんですよね。だから、ましてや校長がわかっけていても職員がわかってないとかですね。

今は、そういうバラバラな状態になるので、そこをどう見ていくかっていうところに早くウエイトをかけて認識を深めていくとかですね、そういったことが必要なんじゃないかなというふうに思います。

現状では、活動本部に地域コーディネーターも、活動をされている人も皆入っているんですよ。説明を聞くと、実際にそうならないよね、やっぱりどうしてもコーディネーターの方に負担が過重になっていくよねと、そういう役割をきちんと持ってもらうなきゃいけない。

そのための対価としての謝金も当然あるだろうし、責任を補佐する学校の認識も必要ですし、そういったところも埋めていくという感じかなと思っています。

(議長)

現状としては、数のとおりそのままずっと動いていると限らないところもあると思う、そんな捉え方をしてよろしいですかね。

実際に地域の中でいろんな役割をされている委員さんの意見もちょっとお伺いしたいところですが、実際に動いてらっしゃる部分としては、もうやっとなるぞということではいかがですか。

(委員)

私も、西諫早小学校の学校支援会議の地域コーディネーターとして、もう15年近くになるかなと思っています。

地域と学校の活動は、全て支援会議で決めております。ここにありましたように、読み聞かせから下校の見守り、通学合宿、地域子ども教室など全ての行事を対象に、いつやるのか、どういった募集をするのか、こういったことを支援会議で決めております。支援会議は年に4～5回開催しています。

最初は5月頃、次に7月頃に開催して、一番大きいのは8月21日、毎年猛暑の中、小学校の体育館に全ての教職員、校区内全ての自治会長、全ての民生委員児童委員、それに福祉協力員と70～80人程度が集まり、5班に分かれて色んなテーマを決めて、話し合いを行っています。

各グループに別れて話し合いをしますので、話し合いの内容と結論を各グループ別に発表していただいてという、約1時間程度の全体での会議をやっております。

そして2学期に入りますと、色んな行事が本格的に始まってきますので、特に今回7月22日の月曜日に第1回目の通学合宿実行委員会が開催されたのですが、その中で出たのが、やはりコロナがこれだけ増えている中で募集をかけて良いものか。それが一番の大きなテーマになっています。

実際、自分がやってみて一番心配するのが、やはり子どもたちの病気ですね。熱が出た、頭が痛い、腹が痛いというようなところが一番心配でありますので、仮に熱が出た場合にはどうするのか。コロナ以前でありましたら、迎えに来てもらい家に帰って、熱が下がったらまたおいでよというようなことをやっておりましたけど、今は熱が出ればコロナを疑うようなこともございますので、実行委員も、もらい湯の協力世帯の方も、食事指導の方もほとんど70歳以上の方ばかりの高齢者なので、そこに迷惑をかけたくないと思っています。

昨年、4年ぶりに復活し、市内6ヶ所で開催されたようですが、今年は昨年より厳しいのかなという感じがいたしています。

大学生のボランティアさんにも数多く協力していただきますので、このボランティアさんたちにも迷惑かけてはいけないというようなところです。

そういった中で、今回一番感じたのは、通学合宿も地域子ども教室も15年ぐらい継続していますが、この10年一昔と昔から言いますけれども、15年経ちますと、当時60歳の人が75歳、65歳の人もう80歳になっているんですね。

また、地域で色々な役をしていただいている方の高齢化を非常に感じておりました、これまで5年生の農業体験として、田植え、稲刈り、脱穀、餅つきまでやっていたのですが、今年度、やはりこれも指導者が高齢で、もうできないと言われて、これはどうしたものかなと思っていたのですが、この件に関しては、学校の近くに農業大学校があるので、そこに指導してもらおうかと思い相談に行ったのですが、農業大学校は田植えをしてないそうで、花と果物と畜産、この3つしか行っていないとのことでしたので、芋でも植えましょうかということで、芋植えを行いました。

やはり、行事の立ち上げに関わっていただいた地域の方と、次の世代である我々とそれ以降の世代とでは、熱の入りようが違うんですね。そのあたりも今後の課題になるのかと思っております。

(議長)

ありがとうございます。長年ずっと市内のトップリーダーとして活動されている西諫早の支援会議ですが、これは委員がコーディネーターという立場になってらっしゃるのですか。

(委員)

ならされたと申しますか、支援会議のコーディネーターとして15年お世話になっています。うちは特殊で、地域の方にメンバーとしてお世話になっている以外にも、鎮西学院大学の教授と学生さんの代表にもメンバーになっていただいています。

また、地域子ども教室もマンネリ化してきましたので、学生さんに頼むよということで、毎週木曜日にやっています。2月からこれまでの間、取り組んでいただいています。あと、民生委員児童委員さんにも、お手玉や竹とんぼなどの昔遊びを子ども教室で指導していただいています。

(議長)

ありがとうございます。

では、地域学校協働本部の中の、地域を組織する様々な形・組織がありますが、委員の方から婦人会として、例えば今いらっしゃる小学校の学校支援会議だとか、こういったコーディネーターがどんな形で進められているとか、そのあたり、あるいは委員の思いなどをお話しいただければと思います。

(委員)

私も、横文字のコーディネーターという名刺をいただいていたんですけど、仲間と一緒に、これどういうふうにやればいいんだろうと常々話はしていたんです。

先程説明してくださって、なるほどなと思って少しわかったような気がします。これだったら、婦人会の本部に行って皆の意見が聞けるなど、おぼろげにわかりました。

私共の会では、それぞれの地域の代表は、それぞれの地域の学校支援会議に入らせていただいていると思うんですね。だから、今日頭に詰め込みましたので、みんなで話し合いの場を持ちたいなと思ったところです。

いつも会議に出て思うのが、私も20歳ぐらい若かったら張り切ってやるのにと、それを強く思います。

先程、高齢化高齢化と耳が痛いなというふうに聞いていましたけど、確かに後輩に引き継ぐには、これを理解して引き継いでもらいたいなと思ったところです。役員会で絶対これを取り上げたいなって思いました。

私の地域でも、議長がおっしゃった食改ですね、そういういろんな知識の多い方がいるので、そういう人たちと私達が組んで、子どもたちの前で色んなことをしております。糖分が多いよとか、そういうことを指導したりなどですね。

だから、地域の仲間とは、他所と比較し活動しているかなと自負しております。

(議長)

ありがとうございます。

地域で共生しているメンバーとしての立場からのご意見、または構成しているメンバーの協力の大きな形がPTAだと思うのですが、いかがですか。

この学校がこんなことやっているよという、そういったプレッシャーもあるのかなと思いますが。

(委員)

私が所属している小学校は、中規模ぐらいの学校ですが、地域の皆さんとの関わりが深く、支援会議などでも皆さん結構活発に意見を出してくださったり、本当に子どもたちを温かく見てくださっています。ただ、やっぱり高齢化の話題がそこでも出ていて、コロナで数年間、間が空いた時に、しばらく活動してなかったらもう体がきつくてとかいう話もよく聞きます。

私達、現役の子育て世代と、今まで頑張ってくださっていた地域の方々の世代のちょうど中間の世代がすぽっと抜けていて、60代ぐらいの方の参加というのが本当に少ないなというのは感じています。

これまでずっと頑張ってくださっていた地域の方の中には、子育てをしていた時代にはPTAの会長をしていたとか、副会長をしていたなどの経験者が多いので、もしかしたら今

60歳ぐらいの方でPTA会長の経験者が地元いらっしゃると思うので、そういった方に声掛けすると、意外と久しぶりに学校に行ってみようかと思ってくださるのではないかと思います。

(議長)

ありがとうございます。

PTAは、地域の次の担い手を養成している組織だからですね。本来は、OBからどんどんそういう方が出てきてらっしゃるのだと思いますし、委員の方々もPTAの役員とかの経験者ですよ。だから、そういう意味ではPTA役員というのは貴重な存在ですね。

(委員)

今、地域学校協働活動本部というのを聞いて、まだ漠然としていますが、私が関わっている学校での図書ボランティアでは、本当に現役世代の保護者の参加が少ないです。OB等の地域の方が頑張っている学校が増えてきています。

その中で、この地域学校協働本部に関わるということになると、現役保護者の方の負担がさらに増えて、なり手がなくなるのではという心配があります。

ですので、方法としては、この本部の構成員の方は、OBや地域の方に参加していただいて、現役の保護者には学校の活動に専念していただくというやり方が、一番いいのかなと考えておりました。

(議長)

ありがとうございます。

関わっている団体等の立場で、皆様からいろいろご意見を伺いました。

このあと、ちょっと違う視点でご意見を伺おうと思っております。もちろん、PTA、親の立場もあると思いますが、客観的に見られて、うまくいっていないというようなところについて、少し厳しめのご意見をお願いできればと思います。

(委員)

私達は青年会議所ですが、専門会社に勤めていて、団体として年1回青少年事業というのを実施するくらいで、学校との関わりが皆さんほどない立場で、私自身も子どもがまだ保育園に通っており、実態がよくわかってない中での発言になります。

まず、青年会議所では、小学校の児童を対象とした事業を実施する時には、市生涯学習課を通して、募集チラシを撒いたり、お話を聞いたりなどしているというのが現状です。

もし、そういった本部があれば、もう少し子どもたちの実態を捉えた活動であるとか、他の団体と重複しないような活動ができるのではないかと、期待をもって聞いていました。

学校の現状等はよくわかりませんが、第三者的な考えからいくと、現状として本部が32箇所設置してあり、コーディネーターが34人いらっしゃるということですが、内容の実態がどういう状況なのか。その点をもう少し詳しく把握し、今うまくいっているところ、もう少し改善した方がいいところというのを分析して、そこから考えていった方が、ゼロからということよりはいいのではないかなと思います。

結局、そうなってくると、先程の委員のような方がいるところはすごくうまく回る、コーディネーター次第で、組織の運営の良し悪しが出てくるのかもしれないので、市全体がうまく回るような仕組みづくりの観点を持って、検討していった方がいいのではないかなと感じました。

(議長)

ありがとうございます。

今、委員のお話を聞きながら、この地域学校協働本部の最終的に目指すところは、私達の中もそうですが、学校が持つイメージと、地域でこれまでずっと関わってこられた人たちとのイメージに少しズレがあるような、何かそんな感じを受けながら聞いていました。

(委員)

ちょっとお尋ねですが、折角なので進める側の立場として、地域の本部というのはどういうものだと皆さんに周知するのでしょうか。

それとコーディネーターと言っていますが、そのコーディネーターというのは、例えば、学校が何か子どものための教育をする上で、このような能力を育てていきたいというものを持ち、そのためにどうすればいいかということで、こういうことができるのではというような、運営に関わっていくようなところも担うのか。

あるいは、計画に関わっていくような部分もコーディネートすることなのか、あるいは、先程お話があったように、全ての活動団体の活動状況の可視化できる状況を作って、この活動はこの団体や人をお願いしてもいいかもねというような雰囲気を作る会議体を運営するとかなど、どの程度までコーディネーターとしての機能を求めているのか。

あるいは、コーディネーターという立場に立って、何かある時にちょっと電話する程度のもので、当人は何もしていないことにもなるし、組織運営についても、学校のことや地域の活動に参加している方は、既に本部の一員という認識だけ持ってもらって、私(コーディネーター)が何かお願いした時に動いてねというものなのか、そういった会議を、年に数回しますよというような感じで進めていくのかなど、その辺りのイメージをどの程度まで求めて、学校を核とするその組織にするだとか、市としてここまで行ってほしい、期待しているなどあれば、回答をお願いしたいと思います。

(生涯学習課参事補)

今の時点で、ご質問の点については、課内で練りに練っているわけではないですが、課内で少しお話をしている程度のもので、私の回答が全てではないと思ってください。

私達も先程ご説明したイメージは、今から作っていく途中段階とっております。本部のイメージは、委員がおっしゃった地域学校協働の会議体については、構成員の数が限られております。それに対し活動体というのは、地域住民全てとっております。

会議体で話し合ったこと、その会議はそれぞれの団体の代表の方が集まって話し合われるかと思いますが、その方々が「よし、こうしようか」と、支援会議や協議会で決まったことを、地域学校協働活動本部として各団体で広げていく、一緒に行動していくというものと思っております。

そのため、地域の人たちは本部の一員という認識を持ってもらいたいと考えています。いざ活動を行おうとしたときに、何十、何百、下手すると千人を超えるようなものを、そうすぐには動かせないため、円滑に進めるための仕組みとして、本部に市から経済的支援ができれば、より活動をしやすくなるのではないかと考えています。

先程のコーディネーターの役割等ですが、経験豊かな高齢者だけでなく、次の世代の方も作っていけるよう、市としては研修等を企画しなければならないだろうと考えております。

また、本部もこちらでも一括りでイメージが出来上がっているわけではございません。地域コーディネーターに求められているものですが、国や文科省が例示しているのは、かなりレベルの高いことを言っております。

授業作りに関わること、例えば生活科でまち探検に行きたいと言ったときに、何年生がどれぐらいの規模で参加するものといえ、コーディネーターがそのまち探検に行くような場所についても選定し、その場所に関わっている方に当日の対応までお願いするといったようなことまでするという例示がございますが、これはレベルが高いなと思っており、今の段階からいきなりそこにはいかないだろうと思っております。

しかし、その例示のようなことは難しいですが、目指すところは、子どもと地域と一緒に出ていく内容(行事)の企画時に、カリキュラムに少し地域のことを知るような、地域に根ざしていくような内容で、学校ばかりがお得になるのではなく、地域もやってよかったと思えるような、Win-Winになるために、地域でこういうことが話題や状況としてあるんだけどというようなお話も、会議体の中で話し合い、地域学校協働活動の一環として行っていくというものもあると思います。

活動体の中で出た話題や話の内容を、会議体の中で他の団体も一緒にできないだろうか、そういう話を持ちかける役割を、地域コーディネーターにさせていただけるとありがたい。学校で話し合ったことを地域に繋ぐということもそうですが、地域から出てきたことを、この会議体に繋ぐのは大変なことだとは思っています。ですから、会議体、活動体がチームでと申しますか、一気にはいかないので、少しずつ地域と学校が繋がっていくような感じになれたらいいと思っております。

そのために、余裕教室があるところには、地域の人がいつも来ることができるような場所を作っておくと、もしかしたら子どもたちがそこで地域の人と話し、それが浸透していくと、掃除のときに地域の方が自分の空いた時間を使って、そこに来て見てくれるとか、昼休みに来ていただいている時に、今日は調子が悪くて他の子とは遊ばないという子が来て、室内で地域の方と子どもの繋がりや交流ができるなどの事例もあってもいいなと、そういう本部分り、コーディネーターの養成というものができたらいいなと思っています。

今お話しした2つともまだ漠然としているもので、お答えになったかどうかわかりませんが以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

まだ答えはないと思うのですが、いずれにしろ、これがはっきりしないと、どのようなものを求めているのかというところを突き詰めてからでないと、話しができないと思います。

(委員)

今の参事補の説明を聞いて漠然としていますが、あまりにもそういった負担をかけると、地域は動かないと思います。

今、民生委員児童委員のなり手が無いということが、似たような事例としてあり、私が児童委員民生委員になった20数年前には、地域の高齢者を民生委員児童委員さんは見守るだけ良いと言われていました。しかし、社協から様々な依頼が来るようになり、現在はものすごい負担がかかってきています。

見守りの対象である高齢者の数も、20数年前からすると倍以上となっており、他の地域も同じだと思いますが、特に我々が担当するニュータウンは、4割以上の高齢化率になっていますので、この方々を見守るのに精一杯の状態です。

この地域コーディネーターも同じで、あまりにもプレッシャーかけると、なり手はまずいないと思います。地域住民の方も、今は65歳まで年金が支給されないということで働かないといけない。できれば70歳まで働きたいという方が多いですので、こういった制度に協力してくれるのは、民児協や婦人会など、色んな団体や組織に入っている方だけしかない状態です。

それに、一般の人はまず学校には来ないです。学校開放を6月末から7月頭に実施していますが、そのような組織に入っている方は、団体を通じて声がかかりますので、ちょっと学校を見に行こうかという発想になりますけど、一般の地域住民は、学校開放のときにも周知が行き届いていないため、学校には来てくれません。

このままでは、うまく運営している支援会議やコミュニティも今後崩れてしまうということを、県の方にも一言言っていただければと思っています。

(議長)

現状としては、ちょっと違うんじゃないっていうこと、国の目指していることあるいは諫早市教育委員会がどういう方向を目指しているかということも、今後少しはっきりさせていただきたいと思います。

まだご意見が出てない2名の委員さんの意見を聞いて、中間まとめにしたいと思います。

(委員)

私の立場は、学校支援会議の中では、まとめる側というよりも地域の人間で、子どもとその親御さんと一緒に活動をしている側なので、どちらかというと、この地域学校協働活動の活動体の方なのかなと思いました。

私も65歳の方もそうなのですが、保育園から小、中学校の子を持つ保護者というのは、基本的に働かなければいけないので、地域コーディネーターの仕事をしてくださいと言っても、まずできないと思います。平日動ける方と、土日しか動けない方は視点が違います。

子ども会だったら、土日に合わせて子どもが喜ぶような内容の実施という視点で、そこを目標としています。

今度、専門指導委員から話をして、7月27日に野外活動講習会を開催します。テントを張って、飯盒炊さんをして、牛乳パックを使ってホットドックを作ってみようという内容です。

子ども会には、本当に子どもが好きで活動し、土日は喜んで参加しますという具合に、いきいきと子供に関わりたいという方がいます。

あと、子ども会の保護者の中にも、本当に自分の子どもが好きで、一緒活動して親として子どもにかっこいいところを見せたいっていう親御さんがいますが、その方たちは、同じ7月27日に原口町公民館でお祭りをしようということで、地域の人たちをお客さんとして呼んで、子どもたちが屋台を開いてということを企画しています。

自分たちだけでは何もできない。できないところを他所の団体さんから力を借りて行うということは、とても大事なことだと思っており、諫早市の子ども大会もこれまで58回の歴史を繋げていますが、やはりその開催本部である市子連会長や専門員の方たちが、今年は地域の単位子ども会長さんたちとお話をして、何をしよう、こういう準備をしようということをして、その方が別の子ども会を連れてきて、9つの遊びを行うようにしています。

レクリエーション研究会や、青少年自然の家を呼んで、何かその活動自体をお願いし、それをまとめてイベントを作るというのは、地域学校協働活動の活動体の方に入るのかなと私は受け止めました。子ども会に関わっている方でも、本部のことを完全に理解することは難しいと思うので、できれば参事補のわかりやすい説明を、出張で行っていただける機会があったらいいなと思いました。

(議長)

ありがとうございます。

(委員)

私は、参事補の説明と皆さんの話を聞いて、1つは先程から出ている地域学校協働本部のイメージとして、どういう役割を持っているのかということが、共有しづらいと思っています。

今、その役割を学校支援会議が担って行っている地区もあると思うのですが、そこに新たに、地域学校協働本部立ち上げることと、既存の支援会議の何が違うのかとかですね。

あと、参事補の説明の中で、その負担感を軽減できる本部構築っていうのはあるんですが、その負担感を軽減できる本部の構築というのは、どういうふうにしたらできるのかというところが、まだイメージがつかめていないために、負担感や負担が増えるのではないかとこのように感じると思うんですけど、今聞いた話で思うのは、地域学校協働本部というのは、色んな既存の組織のネットワークの機能を1つ持たせるっていうのがあるのかなと思います。

お互いがどういうことを活動として行っていて、こういう時には何かお互い連携できるとか、一緒に今までこういうふうに行っていたけど、もっとこういうふうにやれば、負担が軽減できるよねとか、学校にも協力できるよねみたいな、そのようなネットワークで、お互いに情報共有をしながら、ネットワーク機能を持たせていくというのもあるのかなと思います。

そういうのがイメージしやすいと思いますし、あと、実態は地域によっていろいろ違うと思うのです。

今、地域コーディネーターが各地区にいらっしゃるので、その方が地域の中でどのような立ち位置の方なのかとか、どういう組織が中心になって活動しているのかとかということは、地域によって全く違うと思うので、その地域の実態に合った地域学校協働本部の在り方みたいなものがいくつかあると、あなたの地区ではこういうケースが考えられるということが提示できて、少しわかりやすく皆さんに伝わるのかなと思いました。

(議長)

1小1中のところとか、たくさんの大規模校のあるところとか、当然違いはあるだろうし、ある程度の形となっているところと、そうじゃないところは違うし、一番は本当に必要としているところが、私達の中でもそうだし、先程から皆さんから出たりしたことで、ちょうど面白くなりそうだなってことがあるんですけど、現状ちょっと違うんじゃないか。

もしかしたら、学校からすると、地域の人からそういう提案をされてもできないこともあると私は思うんです。

地域からの提案を、すいません、もう行いません。ありがとうございました。お心遣い感謝しますが、それはできませんとはなかなか言い難いものです。

それに、働き方改革の件もありますので、教頭先生には、その会議に出したら次にどこかで休みを取らせないといけないと思うんですね。

ところが、休みと会議が重なり、会議に欠席すると、今年の教頭は出てこないなどと言われるとかですね。

だから、そこは上手にやっていかないと、いくら将来の姿の夢を見せたって誰も寄ってこないのではないかと思います。そうならないように、次回も意見を出していきたいと思うので、事務局の方には、次回の課題で、今回質問が出た回答について、このような意見を持っています等を文章としてまとめていただけますか。

県は、コミュニティスクールについてこんな考えを持っていますとか、コミュニティスクールというテーマで、データも含めて出していただければ、委員の皆さんの話も変わっていくのかなと思います。

限られた時間の中ですので、地域学校協働本部については、諫早市ももう少し整理していきたいということで、今回この議題を出していますので、次回以降に皆さんのお考えを教えてくださいいただければと思っております。

それでは、あまり時間がありませんけれども、2つ目の議題の研究大会の件について、事務局からお願いします。

(生涯学習課長補佐)

－資料説明－

(議長)

今回、旅費について予算化していただいておりますので、九州ブロックの社会教育研究大会鹿児島大会11月7～8日、新幹線がありますので、鹿児島は大変近くなっておりますので、どなたか1人ご参加していただけませんか。

(議長)

立候補していただきましたけれども、よろしいですか。ありがとうございます。

毎年この時期の開催ですので、来年以降皆さん予定しておいていただければというふうに思います。

次に、長崎県大会ですが、今年度は10人全員の予算を確保していただいているということで、これまでは半分ぐらいしか行けなかったのですが、全員行けるといいますのでよろしく願いいたします。

ぜひ皆さんに参加していただいて、特にこの後報告がありますけど、本会議から2名の委員が表彰を受けられます。出席の方よろしく申し上げます。

では、この件を終わりにして、もう1件私の方から、令和6年度長崎県社会教育委員連絡協議会総会これについてちょっと報告をさせていただきます。

－資料説明－

それでは、本日予定しておりました件は、大体終わりましたけれども、皆様の方からは何かございますか。

先程、論議が今から盛り上がるかなというところだったのですが、時間がなく本当に申し訳なかったのですが、本当にそれで良かったねというところとか、地域でうまくやってらっしゃる部分とか、学校の本音の部分なども出していただきながらお話ができました。

また、委員からの質問で、本当に皆さんの共通理解があって先に進むわけですので、宿題の件に関してもよろしく願います。

特に皆さんからなければ私から1点だけ。

この会議の中では、それぞれ所属されている団体の紹介というのがなかなかできないので、よろしければ広報誌とか機関紙とかあったら、皆さんに配布していただければと思います。例えば、学校だよりだとか、PTAの広報誌とかですね。そういったものがあれば、私共もより知る手立てになります。私も公民館などに行ったときに、公民館だよりをもらってくるんですけど、そういうのと同じように皆さんの所属されている団体のいろんなチラシとかを持ってきていただいたら、ありがたいのではないかなと思っています。もちろん SNS を見ればわかるところもあるんですけども、お願いしたいと思います。

(委員)

今の件に関連して、市にも前から言っていることですが、今はインスタとかもありますが、各地域にはそれぞれ素晴らしい活動をしてらっしゃる方いらっしゃいます。

活動をされてる方たちは、自分たちの活動は小さなことなので、紹介しなくてもよいとおっしゃるかもしれないけど、素晴らしい活動をしてらっしゃるので、そういったものを市内に知らしめるといいますか、そのような SNS などを使って紹介する仕組みを作ってみてはどうかと思っています。

例えば、交通指導をされているとか、PTAの方が活動されているとか、結局それが協働本部意識に繋がっていくだろうし、自分たちもその仲間なんだという意識付けにもつながると思います。

今、それぞれがバラバラでやっているところをコーディネートしましょうよと言っても、肝心なのは、既に活動してらっしゃる皆さんが一番大事なわけです。

ぜひ、我々だけの情報交換ではなく、こんなことをされている人もいるんだと思える機会を、市民に対し周知する場を作っていただきたい。こんなことしてくださっています。ありがとうございますと思ってもらえると、やっぱり嬉しいじゃないですか。この次も頑張ろうという気になるので、ぜひそんな取り組みをしていただきたいと思います。

(議長)

今のようなご意見も、また皆さんぜひ出していただければというふうに思っております。

(委員)

関係ないと思いますが、実は明日が諫早大水害の日ですね。

婦人会として、これまでずっと初代会長が建立した祈念碑のところで、何十年もの長い間、慰霊祭をずっと行っています。市長とか生涯学習課の方にも出席していただきますけど、引き取り手のなかったご遺体を1箇所にとめて、ずっと供養しています。それが明日9時半から、慶厳寺でありますので、もしお時間がある方がいらっしゃいましたら、お参りいただければ嬉しく思います。

(議長)

川まつりといっても祭りじゃないぞ。花火の上がる日だけじゃないぞということですね。

そんなところも、学校で話をされていると思うし、今のような形でまた伝えていただければと思います。